

第1部

ロッシーニ:歌劇「セヴィリアの理髪師」から序曲
ロッシーニ:歌劇「セヴィリアの理髪師」から第1幕
「私は町のなんでも屋」(フィガロ) ソリスト:又吉秀樹
プッチーニ:歌劇「妖精ヴィツリ」から第2幕 妖精たちの踊り
ヴェルディ:歌劇「アイーダ」から第2幕 凱旋行進曲
ロッシーニ:歌劇「セヴィリアの理髪師」から第1幕
“まあ、それじゃ私…”(ロジーナ&フィガロ)
ソリスト:湯浅桃子 又吉秀樹
ポンキエッリ:歌劇「ラ・ジョコンダ」から第3幕 “時の踊り”

第2部

J.シュトラウスⅡ:皇帝円舞曲 op.437
ワルトイフェル:スケートをする人々(スケーターズワルツ)op.183
J.ヘルメスベルガーⅡ:悪魔の踊り
J.シュトラウスⅡ:ワルツ「春の声」op.410 ソリスト:湯浅桃子
J.シュトラウスⅡ:ポルカ「雷鳴と電光」op.324
レハール:喜歌劇「メリー・ウィドウ」第3幕から
“メリー・ウィドウ・ワルツ” ソリスト:湯浅桃子 又吉秀樹
スッペ:喜歌劇「軽騎兵」から序曲



浮ヶ谷孝夫 (指揮) Takao UKIGAYA, Conductor

1953年埼玉県川口市生まれ。世界の最前線でタクトを振る日本を代表する指揮者の一人。1978年に渡独してベルリン芸術大学指揮科のヘルベルト・アーレンドルフ教授に師事。カラヤン、ハンガリー、両国際指揮コンクールで受賞。1986年にはポメラニアン・フィル(ポーランド)のドイツ演奏旅行の指揮者に抜擢され、欧州でデビューを果たした。1987年より、同オーケストラの専属指揮者に就任。多数のドイツ演奏旅行やCD録音で高い評価を得ている。1989年より「ハノーファー北ドイツ放送フィルハーモニー管弦楽団」と多数のCD録音。「ポーランド国立放送交響楽団」の専属客演指揮者。1996年に「ドイツ・フィルハーモニア・フンガリカ」日本ツアー。1999年に「北西ドイツ・フィルハーモニー」日本ツアー。2001年、2005年、2019年、「フランデンブルグ国立管弦楽団」フランクフルト」と日本ツアー。2003年には同楽団の首席客演指揮者に就任。2010年より愛知県豊橋市の「豊橋青少年オーケストラキャンプ」を立ち上げ、毎年多くの演奏家の育成に尽力。2013年より東京都主催「歴史的建造物保全プロジェクト・マエストロ浮ヶ谷プロデュース・コンサート」を担当。N響、新日フィル、日フィル、東京フィル、名フィル、東京シティ・フィル、東京ニューシティ管、日本センチュリー響などと共に演。多くのファンを持つ指揮者。2019年8月に東京21世紀管弦楽団の音楽監督に就任。ドイツ在住。



湯浅桃子 (ソプラノ)

Momoko YUASA, Soprano

東京藝術大学卒業。同大学大学院修了。二期会オペラ研修所マスタークラスを最優秀にて修了。文化庁在外派遣研修員としてボストンで研鑽を積み、オペラ・デル・ウェスト(ボストン)『愛の妙薬』アディーナに抜擢される。国内では、小澤征爾指揮『タンホイザー』、二期会『チャールダッシュの女王』シュタージ、『天国と地獄』ユーリディス、『フィデリオ』マルツェリーネ、日生劇場『後宮からの逃走』ブロンデ等を好演する他、「ディズニー・オン・クラシック」ウォーカリスト等でも活躍。日本音楽コンクール第三位。ピーター・エルヴィンス・コンクール第二位等受賞歴多数。二期会会員



又吉秀樹 (バリトン)

Hideki MATAYOSHI, Baritone

東京藝術大学卒業。同大学大学院首席修了。第40回イタリア声楽コンクール優勝等受賞歴多数。イタリア、オーストリアで研鑽を積む。オペラでは、2014年二期会『イドメネオ』タイトルロールに抜擢され、輝かしい美声と確かな音楽性で高い評価を得る。同『こうもり』『アイゼンシュタイン』、同『天国と地獄』オルフェ／ジュピター、新国立劇場『ルチア』でも好評を博す。コンサートでも「第九」「メサイア」等のソリストとして活躍する一方で20年には「ディズニー・オン・クラシック」に出演。多方面で活躍している。22年10月よりバリトンに声種転向。二期会会員

東京21世紀管弦楽団 Tokyo 21c Philharmonic

音楽を通して、多くの人達と手を携え、今までの固定観念にとらわれない新しい時代の「楽しいオーケストラ」を目指して演奏活動を進めて行くプロフェッショナルなオーケストラとして2019年に設立。浮ヶ谷孝夫(フランデンブルグ国立管弦楽団フランクフルト首席客演指揮者)を音楽監督に迎え、定期演奏会では、ベートーヴェン、ブラームス、ブルックナー、シューベルトといった重厚なドイツ音楽で圧倒的な成功を収めている。また、青少年のための音楽鑑賞会の依頼公演に出演するほか、教育的活動にも積極的に参加し、多彩で幅広い音楽活動を展開している。クラシック音楽を広く普及させる自主公演、定期公演は東京芸術劇場を拠点とし、紀尾井ホール、サントリーホール、東京オペラシティコンサートホールなど都内の主要なホールで活動をしている。2019年オスカー新人賞を受

賞したテノールのステファン・ポップ、オペラ界のビッグスター、ファン・ディエゴ・フローレス、ヴィットリオ・グリゴーロとの共演。2021年、オペラシティにて行われたベートーヴェン「第九」は、満席の聴衆を魅了し大成功を収めた。2022年6月、第18回ショパン国際コンクール第3位入賞のマルティン・ガルシア・ガルシアとの協奏曲のタペ、同年8月東京国際フォーラムホールAでのミュージカル「ラ・ラ・ランド」6回公演、11月オーチャードホールで「BBC PROMS」に出演し好評を博した。12月東京芸術劇場にて「第九」公演は多くの聴衆から高く評価された。2023年1月「ホセ・カレーラス&プラシド・ドミンゴ」コンサートに出演し好評を博すなど、その活動の場を広げている。

